

東京国立近代美術館 収集の概要（令和7年度）

東京国立近代美術館本館では、19世紀末から今日までの日本画、洋画、彫刻・立体造形、版画、水彩・素描、写真、映像作品を、日本を中心に、日本に影響を与えた海外作家の作品も合わせ収集している。

今年度も収集方針に沿って大きな成果をあげた。なかでも日本画家・橋本雅邦による円熟期の代表作《臨済一喝》、近年世界的な再評価著しいスイスのアーティスト、ゾフィー・トイバー＝アルプの《垂直－水平の構成》、世界的評価を受ける日本人アーティスト、河原温の初期大作《洪水期》の収蔵は特筆に値する。また近年重点的に取り組む女性作家の作品の充実として、朝倉摂（日本画）、漆原英子（油彩）、オノ・ヨーコ（映像）、山沢栄子（写真）など、多様な時代とジャンルの作品の収蔵に成功した。同じく近年計画的に取り組む1980～90年代作品の収集として、大竹伸朗、岡部昌生、前本彰子などによる時代を象徴する代表作の収蔵が実現した。

東京国立近代美術館 美術作品購入一覧（令和7年度）

★

= 特別予算購入

1	種別：日本画 作者名：速水御舟（1894－1935） 作品名：林丘寺塀外の道 制作年：1918年 材質・形状：紙本彩色・額 寸法：108.0×72.5 cm 解説：新南画風、写実的な細密描写、琳派的な装飾性など表現を次々に展開し、日本画の変革を推進した速水御舟。彼が細密描写に取り組み始める直前に位置づく作品で、これまでキュビズム、富岡鉄斎、セザンヌなどとの類似が指摘されてきた実験作。 取得額：19,800,000円 展示予定：展示予定（当館企画展：2027年3月-5月）
2	種別：日本画 作者名：朝倉摂（1922－2014） 作品名：うえかえ 制作年：1941年 材質・形状：紙本彩色・額 寸法：136.0×182.0 cm 解説：朝倉摂は、戦前から日本画家としてキャリアをスタートし、戦後は舞台美術の分野でも活躍した。庭木の植え替え作業に取り組む男性たちを描いており、戦時下の人々の暮らしを伝える作品であるとともに、当時女性の画家が男性をモデルに描いた稀有な作例である。 取得額（円）：1,244,001円 展示予定：展示済（所蔵作品展：2025年11月-2026年2月）
3	★ 種別：油彩その他 作者名：ゾフィー・トイバー＝アルプ（1889－1943） 作品名：垂直－水平の構成 制作年：1917年頃 材質・形状：リネンのキャンバスにウール刺繍 寸法：48.0×29.5 cm 解説：ゾフィー・トイバー＝アルプは、ダダをはじめ様々な芸術運動において中心的役割を果たした作家。タブロー形状の刺繍作品で、マイナーかつ、しばしば女性の仕事とされたレッサー・アート（小芸術）の側から、抽象表現の最先端に迫った革新的試みである。 取得額（円）：123,995,118円 展示予定：計画中
4	種別：油彩その他 作者名：漆原英子（1929－2002） 作品名：Midnight Circus 制作年：1953-54年 材質・形状：油彩・キャンバス 寸法：91.0×72.7 cm 解説：漆原英子は1950年代、本作に典型的な、暗色の画面に張り巡らされた網目や線描の隙間から有機的イメージが覗く油彩を発表、評価を得た。1960年代に入ると水彩やコラージュの制作に移行するため、同類の作品は制作数が非常に少なく貴重である。 取得額（円）：4,950,000円 展示予定：展示中（所蔵作品展：2026年5月-9月）

5 	種別	油彩その他
	作者名	河原温（1932－2014）
	作品名	洪水期
	制作年	1955年
	材質・形状	油彩・キャンバス
	寸法	181.0×213.4 cm
	解説	コンセプチュアル・アートの中心的人物として世界的に知られる河原温が、1950年代に東京で制作した絵画。実際にあった九州の大被害に基づき描かれたとされ、具体的な現実の参照点をもつ点で河原の作品のなかで特異なものである。
	取得額（円）	370,823,100円
6 	種別	日本画
	作者名	橋本雅邦（1835－1908）
	作品名	臨済一喝
	制作年	1897年
	材質・形状	紙本彩色・軸
	寸法	177.0×94.7 cm
	解説	橋本雅邦は、狩野芳崖とともに近代日本画の礎を築いた画家。雅邦のもっとも充実した時期の一点で、臨済宗の開祖である臨済義玄が、禅を問うた者に対して「臨済の喝」を下す姿を躍動的に描いている。
	取得額（円）	77,000,000円
7	種別	日本画
	作者名	北野恒富（1880－1947）
	作品名	墨染
	制作年	1918-1919年頃
	材質・形状	絹本彩色・軸
	寸法	145.2×50.6 cm
	解説	北野恒富は、大正から昭和にかけて大阪画壇を牽引した画家の一人。描かれるのは、歌舞伎の演目に登場する傾城（遊女）の姿をした桜の化身、墨染。桜の樹と、その化身とを薄墨色を用いて同化させ、足元を量して墨染の人ならぬ身を表現している。
	取得額（円）	3,300,000円
8	種別	油彩その他
	作者名	パウル・クレー（1879－1940）
	作品名	採石場のコロニー
	制作年	1926年
	材質・形状	油彩・ボード
	寸法	23.0×29.5 cm
	解説	クレーがバウハウスで教鞭をとっていた時期の作品。描かれたのは採石場近くのコロニー（集合住居）で、描くものがあらかじめあるのでなく、対象は制作プロセスのただなかにおいて生成してくるという、クレーの造形原理を良く見て取れる佳作である。
	取得額（円）	35,200,000円
9	種別	油彩その他
	作者名	森本紀久子（1940－）
	作品名	イエフキア2
	制作年	1966年
	材質・形状	油彩、オイルパステル・板
	寸法	184.5×139.0 cm
	解説	森本紀久子は1960年代に気鋭の新人として注目を集め、精力的に制作を続けてきた作家。本作に見られる鮮やかな色彩の細密画が森本の代表的作風で、発表時、プリミティブでエネルギーギッシュな表現として評価された。
	取得額（円）	－
	種別	油彩その他
	作者名	森本紀久子（1940－）
	作品名	イエフキア2
	制作年	1966年
	材質・形状	油彩、オイルパステル・板
	寸法	184.5×139.0 cm
	解説	森本紀久子は1960年代に気鋭の新人として注目を集め、精力的に制作を続けてきた作家。本作に見られる鮮やかな色彩の細密画が森本の代表的作風で、発表時、プリミティブでエネルギーギッシュな表現として評価された。
	取得額（円）	－

10	種別	油彩その他
	作者名	三島喜美代（1932－2024）
	作品名	メモリーI
	制作年	1971年
	材質・形状	油彩、馬券、新聞紙、インク・キャンバス
	寸法	161.8×130.5 cm
	解説	三島喜美代は1950年代から60年代に平面作品によりキャリアを初め、70年代以降は新聞など印刷物を陶にシルクスクリーンで複製転写した立体の制作に転じた。本作は外れ馬券と競馬新聞によるコラージュで、平面から陶への移行期における結節点となる重要作。
	取得額（円）	9,108,000円
11	展示予定	計画中
	種別	油彩その他
	作者名	三島喜美代（1932－2024）
	作品名	メモリーII
	制作年	1971年
	材質・形状	油彩、馬券、新聞紙、インク・キャンバス
	寸法	162.4×130.5 cm
	解説	三島喜美代は1950年代から60年代に平面作品によりキャリアを初め、70年代以降は新聞など印刷物を陶にシルクスクリーンで複製転写した立体の制作に転じた。本作は外れ馬券と競馬新聞によるコラージュで、平面から陶への移行期における結節点となる重要作。
12	取得額（円）	9,108,000円
	展示予定	計画中
	種別	油彩その他
	作者名	三島喜美代（1932－2024）
	作品名	メモリーIII
	制作年	1971年
	材質・形状	油彩、馬券、新聞紙、インク・キャンバス
	寸法	161.8×130.3 cm
13	解説	三島喜美代は1950年代から60年代に平面作品によりキャリアを初め、70年代以降は新聞など印刷物を陶にシルクスクリーンで複製転写した立体の制作に転じた。本作は外れ馬券と競馬新聞によるコラージュで、平面から陶への移行期における結節点となる重要作。
	取得額（円）	9,108,000円
	展示予定	計画中
	種別	油彩その他
	作者名	大竹伸朗（1955－）
	作品名	ミスター・ピーナッツ
	制作年	1978-81年
	材質・形状	エナメル、アクリリック、シルクスクリーン、段ボール、キャンバス
14	寸法	91.0×72.5 cm
	解説	大竹伸朗は1980年代以降、日本の現代美術を代表する作家の一人として国際的評価を得ている。初個展の出品作で、海外の新表現主義からの影響や国内のイラストレーション隆盛の動向をストレートに示す80年代を象徴する作品。
	取得額（円）	－
	展示予定	計画中
	種別	素描
	作者名	村山槐多（1896－1919）
	作品名	信州風景（大屋駅）
	制作年	1914年
14	材質・形状	木炭・紙
	寸法	47.0×62.5 cm
	解説	村山槐多は大正期に活躍した夭折の画家。長野県大屋の風景で、勢いのある力強い直線の連なりによって家々の屋根、樹木、線路などが描かれる。この時期の槐多のスタイルをよく示す作品である。
	取得額（円）	4,400,000円
	展示予定	計画中
	種別	素描
	作者名	村山槐多（1896－1919）
	作品名	信州風景（大屋駅）

15	種別	素描
	作者名	村山槐多（1896－1919）
	作品名	風船をつく女（B）
	制作年	1918年
	材質・形状	木炭・紙
	寸法	76.9×52.5 cm
	解説	村山槐多は大正期に活躍した夭折の画家。本作は油彩制作のための習作のひとつ。油彩自体は結局未完に終わったため、槐多の構想を今に伝える貴重な作例として重要視されてきた。
	取得額（円）	4,400,000円
	展示予定	計画中
16	種別	素描
	作者名	岡部昌生（1942－）
	作品名	Stroke-on the floor Sagacho #000 August 02 - September 02
	制作年	1986年
	材質・形状	鉛筆・紙
	寸法	400.0 × 310.0 cm
	解説	岡部昌生は、場所や歴史の痕跡から記憶を想起させるフロッターージュによって評価される作家。本作は、日本最初期のオルタナティブ・スペース「佐賀町エキジビット・スペース」での個展のため、同スペースの床をフロッターージュしたもの。
	取得額（円）	－
	展示予定	計画中
17	種別	彫刻
	作者名	前本彰子（1957－）
	作品名	大紅蓮
	制作年	1986年
	材質・形状	ドンゴロス、アクリリック、水性塗料、ラメ粉、針金
	寸法	230.0×650.0×73.0 cm
	解説	前本彰子が注目を集めた、彩色した布やビーズ、ラメを用いたドレスの大型インスタレーション作品。フェミニズム的視点、舞台美術のような形式、サブカルチャーとの関わりなど、1980年代を象徴する作品のひとつである。
	取得額（円）	－
	展示予定	展示中（所蔵作品展：2026年5月-9月）
18	種別	映像
	作者名	オノ・ヨーコ（1933－）
	作品名	カット・ピース
	制作年	1964・1965年
	材質・形状	16ミリフィルム（白黒、HD デジタルヴィデオに変換）
	寸法	8分27秒
	解説	オノ・ヨーコの初期インストラクション・ピースを記録した映像作品。観客は順番に、ステージ中央に座る作家の衣服をはさみで切り取っていく。見る／見られる、切る／切られるという関係性を通じ、ジェンダー、暴力、権力などの問題を問いかける。
	取得額（円）	－
	展示予定	計画中
19	種別	写真
	作者名	山沢栄子（1899－1995）
	作品名	What I am doing No.78
	制作年	1986年（printed 2025）
	材質・形状	発色現像方式印画、アルポリックパネルにマウント、額装、ed. 2/5
	寸法	90.0×95.6cm
	解説	〈What I Am Doing〉は、1976年から1986年にかけて制作された山沢による抽象写真の代表的シリーズ。「No.78」では、光の反射や映り込みによる新たな色彩とフォルムの探究が試みられている。
	取得額（円）	1,113,750円
	展示予定	展示予定（所蔵作品展：2026年9月-2027年1月）

20	種別	： 写真
	作者名	： 山沢栄子（1899－1995）
	作品名	： What I am doing No.83
	制作年	： 1986年
	材質・形状	： 銀色素漂白方式印画、額装
	寸法	： 29.0×27.8(36.7×30.0)cm
	解説	： 〈What I Am Doing〉は、1976年から1986年にかけて制作された山沢による抽象写真の代表的シリーズ。ヴィンテージ・プリントの「No.83」は、色彩と反射の探求を主題とするもので、シリーズの核をなす重要な一点。
	取得額（円）	： 3,730,375円
展示予定： 展示予定（所蔵作品展：2026年9月-2027年1月）		
ほか30点／計50点 購入総額：730,598,944円		